

カリフォルニア大学留学体験記

留学地：アメリカ合衆国

留学期間：平成26年3月～27年3月

東京理科大学 工学部 機械工学科卒

京都大学大学院 機械理工学専攻

よねだ ひろき
米田 洋樹

(横浜市立東高等学校卒)

留学を決意した経緯

大学に入学した頃、それまで勉強もろくにせず、のめり込んだことは野球くらいであった筆者は、将来何も特徴がなく平凡な人間になってしまうと人生への危機感を感じ、経験豊かな深みのある人間になりたいと考えた。そこで、言葉や文化の異なる海外に留学をすることによってさまざまな経験ができると考え、本学のカリフォルニア1年留学プログラムを現実的に考えるようになった。最終的にこのプログラムに参加することを決めた理由は、大きく分けて3つある。

1つ目は、今までとは全く異なる環境・場所で生活してみたかったことである。このことにより、さまざまな状況においても対応できる力がつくと考えた。

2つ目は、1つ目と重なる部分もあるが、多種多様な経験ができることである。これは冒頭でも述べた、留学を考え始めたきっかけ

でもあるが、多くの経験は、今後直面する問題を解決する際に必ず自分を救ってくれる武器になると考えたためである。

3つ目は、英語力の底上げである。生きた英語に毎日のように年若いうちに触れることで、効率良く実践的な英語を身につけられると考えた。

留学中の住まい

筆者は、1年の前半をホームステイ、後半を2人の友人とシェアハウスをして過ごした。特に後半の、友人と一緒に過ごした日々は、かけがえのない宝である。ここで、シェアハウスに関する話を紹介する。

留学生在活が始まってすぐに親しくなった中国人の友人と、夏頃からUloopというサイトなどを利用してシェアハウスをする家を探し始めた。サブリースの情報を提示している学生に何度もコンタクトを取ったが、希望のアパートが見つからず、最終的には大学のあるデビス北部のアパート密集地帯を直接まわり、2人の希望に合ったアパートを見つけた。しかし、1ヵ月の家賃が1人約750ドル(約9万円)と高いため、もう1人シェアをしてくれる人を探し、3人で住むことを考えた。すると直ぐに2人の共通の中国人の友人が、住む場所を探しているという情報を聞き、その友人とシェアハウスをする話を進めた。

住むことに決めた部屋の中にはいくつかの個人部屋があり、その大きさの違いなどか



ハウスメイトと共に 筆者は手前右